



新連携・地域資源活用・農商工連携

砂川発～自然素材・人・思いをつなぐ商品づくり

独立行政法人中小企業基盤整備機構

新事業支援部 連携事業支援課 主任 岩崎 清明香

紹介事例の概要

会社名 株式会社ローレル

認定事業区分 農商工連携

認定事業名 北海道産のよもぎを活用

した化粧水・石鹸・入浴剤等の開発・製造及び販売

認定日 平成23年2月2日

■「よもぎ」の活用と「まち」の砂川

北海道砂川市は、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、人口はおよそ2万人。東部はなだらかな丘陵地帯で西部には石狩川と空知川が流れ、市街中心部は平地地帯で南北に細長く展開している。また、昭和59年に環状庁から道内初のアメニティ・タウン（快適環境都市）の指定を受けるなど、豊かな緑と水に囲まれた街である。

また、同市は、かつては空知地域の基幹産業である石炭関連産業を基盤に商業と交通の要として栄えたが、現在は、国道12号線沿いに広がる「すながわスイートロード」が有名で「お菓子のまち」として知られている。砂川市での菓子業が発達したのは炭鉱繁栄時代にさかのぼり、当時、甘いお菓子は肉休労働をする炭鉱労働者の疲れを癒したり、家族や親戚へのお土産として喜ばれ、重宝された。そのため、今では創業100年を超える老舗もあるほど、菓子作りは砂川の地域に長く根ざしている。

さらに、砂川市には、日本で唯一の総合馬具メーカーなどこだわりのものづく

りを行っている企業が多く、まちの活気を支えている。

■中川町産のよもぎの活用

そのようなものづくりの企業と和菓子屋さんとの出会いが、今回の事業に取り組みきっかけの一步となった。

砂川市に所在する北海道の代表的なものづくり企業である株式会社ローレル（以下、ローレル。今井浩恵社長）は、平成元年創業で自社栽培のハーブで土産物を製造・販売していたが、平成12年に現今井社長の就任を機に、化粧品などの生活雑貨メーカーへと事業転換した。ローレルの商品は、商品企画・販売をローレルが担い、商品開発・製造を隣接するエルポート・サイエンス有会社（以下、エルポート・サイエンス。今井浩恵社長）が担っていることから、企画、開発、



LAUREL シリーズ



今井浩恵社長

製造、販売までという商品ができるまでの一連のプロセスを自社のみで行えることが、強みの一つとなっている。またローレルは、事業転換以降、主に入浴剤など数多くのOEM商品を手掛けてきたこととこれらの商品を販売してきたことを通して、化粧品・雑貨の企画から製造までのノウハウを蓄積し、多くの卸・小売業者への販売チャネルを獲得した。さらに、それらが経営安定につながった。このような状況を受けて、平成21年に自社ブランド「LAUREL」を立ち上げた。「LAUREL」シリーズは、ローレルの強みを活かしつつ、「自分たちが使いたいものをつくる」という思いにこだわったアロマ及びボディケア商品で、働く女性や主婦に人気があり売上げも好調だ。もともと、「LAUREL」シリーズの原材料は、トルコやガーナなど国外や道外の原料を使用したことが、ここ数年、「北海道の原料を掘り下げてみたい！」という今井社長の思いが湧き上がり、商品開発に向けて北海道の素材を探していた。

そんなある日、砂川の和菓子メーカー

である吉川食品株式会社（以下、吉川食品 吉川幸宏社長）のよもぎ大福を食べた今井社長が美味しさに感動し、「食べると美味しいものは肌にもよいはず！化粧品を作りたいたい」と強く感じた。そんな今井社長のシンプルだが本質を突いた感性がよもぎを原料とした化粧水や入浴剤をつくるきっかけとなった。そこで早速、吉川食品を介してよもぎを生産している中川町の翔北農園合資会社（以下、翔北農園 吉田寛社長）に会いに行った。

翔北農園は、中川町で建設業を営んでいたが、平成15年に農業生産法人である当社を設立した。主に「よもぎ」や「ギョウジャニンニク」を栽培しており、よもぎについては独自の栽培方法を実践しているため、良質なよもぎが生産できる。また、加工施設を持ち、一次加工や急速冷凍保存など優れた加工技術を持つ。今井社長は、数ヘクタールにもなる広大なよもぎ畑を見て、また、良質のよもぎを作ろうと細部にまでこだわる吉田社長の思いに共感し「探していたのは、このよもぎだ！」と直感した。

このように、ローレルとエルポート・サイエンスの「北海道の素材を使った商品を開発したい！」という想いと翔北農園の良質なよもぎの提供が可能であること、また、技術的な面や売り上げの拡大なども期待できることから、よもぎを活用した新商品の開発に向けて、連携事業を開始することとなった。そして、よもぎをはじめとする北海道の素材を使った商品シリーズを「sozai LAUREL」と名付けた。



sozai LAUREL シリーズ

■商品づくり〜企業間連携と消費者目線

この連携事業において、参画する企業5社のそれぞれの役割は次のとおりである。

まず、ローレルは、商品の企画・販売を担当し、今までに培ってきた化粧品等の企画・開発・製造・販売における一貫したノウハウを活用する。なお、当社はこの連携事業の中心的役割を果たす。

また、エルポート・サイエンスは、商品の開発・製造を担当する。当社は、薬事法上の化粧品製造ができる化粧品製造販売業許可を取得しており、研究開発から製品の製造、包装までを一貫して実施できる設備もある。本事業ではそれらを活用する。

次に、翔北農園は、よもぎの栽培・収穫・提供及び一次加工を担当し、よもぎを栽培する農地及び栽培ノウハウと自社内にある加工設備を活用する。

また、吉川食品は、蒸留後のよもぎの冷凍保存を担当し、当社が保有する冷凍

設備やよもぎの長期保存に関する知見といった経営資源を活用する。

最後に、株式会社メグカンパニーは、マーケティング支援を担当する。当社が持つ経営資源である商品の販売戦略のノウハウや広報・広告宣伝戦略のノウハウがインターネットにおける販売戦略のノウハウを活用する。

さて、この連携事業では、中川産のよもぎを使った化粧水、バスパック、ボディスクラブ、石鹸の4種類の商品の開発（**図1参照**）を行い、その特徴は、北海道産の自然素材の活用、良質な原料を無駄なく活用、よもぎの非食部分の活用の3つである。いずれの商品も使用時の触感や香り、実感できる効果を大切にし、安価な類似商品と差別化している。メイインターゲットは20〜30代の女性で、店舗販売、インターネット販売を販売チャネルとした。

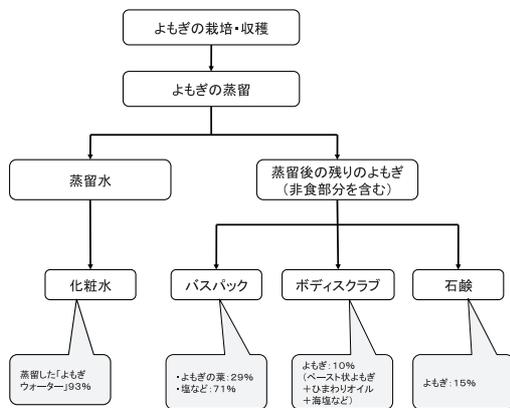


図1 中川産よもぎを使った商品ができるまで

ローレルは平成23年2月2日に農工商等連携事業計画「北海道産のよもぎを活用した化粧水・石鹸・入浴剤等の開発・製造及び販売」において国の認定を受けた。

国の認定を受けたことで、「中小機構をはじめとする各行政機関等とのつながりができ、素材の情報などソフト面での情報の取得や交換を行えることがメリット」と語る今井社長。また、「法の認定をきっかけに中小機構の支援メニューを知り、企業が抱える課題を解決するためこれらの支援メニューを活用できることもよいことだ」と言い、「これをきっかけに、多くの人がローレルを応援してくれるのが何よりも嬉しい」と笑顔で話した。

■世の中を幸せにしよう

一方、ローレルは、小学生等の工場見学受け入れや地域住民向けのイベント、さらには東日本大震災被災地域を訪問し、女性に対するネイルアートを施したり、スキンケア商品を配布する等社会貢献への取り組みも積極的に行っている。同社が掲げる「LAURELの信念」のように、人と人の思いを大切にすることで、商品だけでなくこのような活動にも活かされており、多くの人たちとの交流により人の輪もどんどん広がっている。今井社長は「自分たちがやりたいことで世の中が幸せになることにはどんどん挑戦していきたい」と意欲的だ。今後のさらなる活躍に期待したい。